

市長室：対話の記録

要旨

開催内容の公開

- ・市長あいさつ
- ・内容
- ・市長終わりのあいさつ

第30回目となる今回は、「子育て支援(地域における子育て支援活動)」をテーマに、地域において子育て支援活動を行っている育児サークルなどの各団体の方々と日々の活動状況や今後の課題などについて対話、意見交換を行いました。



日時	平成20年8月28日(木) 午前10時30分～午前12時00分
場所	旭川市神楽公民館 講座室 (神楽3条6丁目1番12号)
出席者	旭川市長 西川将人 (以下、敬称略) 育児サークル Funマミー 錦川理香 てくてく 鎌田明美 ベリーベリー 登久美子 いちごりあん 安中 瞳 わいわいベビースイミング 石田 明子 わんわん 小森瑞奈 母親クラブ えぷろん 新見美樹子 子育てサロン 東旭川 藤田悦子 神楽 野村みどり 春光台 上森仲子 NPO法人わははネット 元スタッフ 中田倫子 地域子育て支援センター おひさま 中山美知子 ほっとほたる 奥亜由美 杉原真理 によきによき 横山末子 つどいの広場 ねむのき 木下三恵子 社会福祉協議会 杉山 幹夫

対話の内容

当日の配付資料は、前ページの開催内容一覧に添付していますのでご覧ください。

以下、参加者の皆様については、敬称を省略させていただきます。



テーマ～「子育て支援(地域における子育て支援活動)」

市長あいさつ・説明

皆さん、こんにちは。

今日は社会福祉協議会の方など、ある面専門的な部分でいつも地域の子育てに携わってもらっている方々にお声を掛けさせていただきました。1時間 30 分ぐらいの時間ですが、旭川市において、これからも子どもを生ま育てやすい環境をどうやってつくっていくかなど、いろいろと意見交換をさせていただいたり、お知恵をいただくことができると思っております。どうぞよろしく願いいたします。

今日は、まず初めに私から現在の市の施策について皆さま方にお話しをさせていただいた後、フリートークに入っていこうと思っています。

では、最初に少し私からお話しをさせていただきたいと思います。皆さんのお手元にまちづくり対話集会の資料ということで、A3版のペーパーをお渡ししているかと思えます。これが分かりやすく書いてありますので参考にさせていただければと思います。

現在、「次世代育成支援行動計画」の前中期期間であります。今後、平成 22 年から 26 年までの5か年が後期計画となります。

この計画の中で、子育てを支援する地域づくりの推進ということで6つの基本方向が定められており、重点推進事業として「子育て家庭に対する育児支援」と「地域ぐるみの子育て支援活動の促進」を掲げています。

「子育て家庭に対する育児支援」につきましては、地域子育て支援センター事業を現在市内の3つの保育所で実施をしており、また、つどいの広場事業を「ねむのき」さんで行っております。また、子育てサロン等の活動の支援につきましては、市内数か所で未就園児のお子さんを持つ親御さんの交流や相談などを行ってきております。

また、「地域ぐるみの子育て支援活動の促進」につきましては、ファミリーサポートセンター事業で育児援助や一時預かりというような事業、また平成 19 年1月から「子ども緊急さぼねっと」という、これも一時預かりのような事業を行っております。また、育児サークル活動の活性化ということで、障害者福祉センター「おびった」などで事業を行っておりますが、いろいろな部分で子どもたちと保護者が交流していただいたりとか、お母さん同士の相談、いろいろな悩みについて話し合うような機会を持っていただければ、少しは子育て中の皆さんにとっていい機会を提供できるのでないかということで、これまでも行ってきています。

来年度から平成 22 年からの後期計画をつくっていく予定です。その中で皆さんからのご意見等で反映できるものがあれば反映していきたいと思っていますので、この時期にこういう機会をもたせていただきました。

今、簡単に説明させていただきましたが、他に市の事業といたしまして、保育所や留守家庭児童会における待機児童が多い状況でありますので、この待機児童について何とか解決していこうと、保育所の増設や留守家庭児童会の拡充なども継続的に行っているのですが、まだ需給バランスが合っていない現状です。

また、家庭内の暴力への対応、対策や発達障害を持つお子さんへの様々な支援などについても取り組んでおりますが、これらの事業についても重点項目としてさらに続けていかなければならないと考えております。

ご参考までに、平成20年度版の「子育てガイドブック」がリニューアルしましたので、今回お配りさせていただいております。

以上、私から口火を切らせていただきましたが、この後は皆さんからのご意見を聞かせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

自由に発言していただいて結構です。どなたか口火を切っていただけの方がいたらありがたいと思っております。いかかでしょうか。



藤田

主任児童委員ということで、東旭川地区で子育てサロンを主宰しております。

せんえつながら皆さまに子育てサロンの一覧表をお配りさせていただきましたが、今年から「子育てガイドブック」に子育てサロンがしっかりと説明付きで掲載され、大変うれしく思っております。

子育てサロンというのは、お母さん、子どもたちに集いの場所を提供して、子ども同士、お母さん同士がお友達をつくってください、楽しく活動してくださいという一番の土台づくりだと思っています。このような場所を提供することが一番大事なことだと思います。地図を見るとわかるのですが、東旭川の左下、愛宕公民館のところに愛宕子育てサロンができましたが、このように見るとどの地域が足りないかというのがわかります。そういうところにこれから私たち主任児童員の中で手当をしていかなければならないと考えているところです。また子育てサロンが新しく開設された時には、市の職員の方々がお手伝いしていただけるということで、安心して開設できるような状態になっております。

個人的には公民館全部に子育てサロンできたらうれしいと思っています。児童センターや児童館がない地域に、全市的に配置されるようなかたちになって、お母さんたちが家庭に閉じこもってばかりでストレスを感じないように、少しでも出る場づくりをしていきたいと思っています。自分が住んでいる近くで歩いて行ける距離にあるのが理想だと思います。お母さん方は車を乗り合わせたり、お互いに協力したかたちで、いろいろな子育てサロンに参加してござっております。

私も後で若いお母さんたちからも意見を聞きたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

市長

どうもありがとうございます。日頃から大変お世話になっております。今後、順次増やしていけたらなと思っていますので、またご相談させていただきます。

中山

私は地域子育て支援センター「おひさま」があります鉄道弘済会保育所の中山と申します。よろしくお願いいたします。

私の保育所では平成9年に旭川市内で一番最初に地域子育て支援センター事業の委託を受け活動を始めました。当時は、子育て支援とは何だろう、どういうことをしてくれるのだろうという状況であったと思います。私は保育所でずっと働いていますので、乳幼児の成長ですとか、それから小さな子どもたちを抱え、仕事と子育てを両立されている親たちとずっと接してきて大変さを共感していたのですが、地域に目を向けた時に、地域で子育てをされている方たちが、子育てについて悩みや心配事があっても相談するところがな

いことについて、これでいいのかなと思っていました。

ちょうど全国的に少子化対策の一つとしてエンゼルプランが打ち出され、全国に子育て支援センターを設置するということになり、北海道内にも少しずつ設置され始めていた頃、私たちはこれまでの保育の経験を生かして、是非地域に向けた子育て支援をしたいということで「おひさま」を開設しました。

仕事と子育てを両立しながら生活している方々は本当に時間がなく、とても大変なのですが、「先生、最近うちの子はこうなんだけれどもどうだろうとか」と相談したり、保育所と関わりながら子育てを進めていくことができます。でも、家庭で子育てをされている方は、心配事があったり、子どもとの遊び方を知りたいと思っても、そういうことを学んだり、情報をもらったりする場がすごく少なく、朝から晩まで子どもと家で二人っきりで、外出といえば夕方スーパーに買い物に出るくらいです。近くに公園があっても、公園で遊んでいる親子が少なく、同じような子育てをしている人とお友達になるとか、話をする機会がなかなかないということです。特に転居されてきた方などは、知り合いもいないところで子育てすることはとても大変で、すごくさびしい生活をしてると泣いて私たちに訴えていました。このように子育てをとっても負担に思っているお母さんは決して特別なのではなく、同じような状況、同じように感じている方がたくさんいるということを実感し、やはり地域に向けた子育て支援をもっともっとしていかなければいけないと感じながら、いろいろなことを教えられてこの10年間活動を進めてきました。

10年前も今も子育て支援ということはいろいろなところで言われているのですが、子育てをしている当事者にとっては、自分が守られているというような実感が少なく、やはり子育ての大変さは10年前も今も同じだと私は感じておりまして、身近なところに子どもを連れて遊びに行ける場をたくさんつくっていかなければいけないと思いますし、また親が子育てに前向きになって元気になると、子どものちょっとした成長でもすごく喜びに変わり、子どもに対する愛情を持って子育てを楽しむことができます。お母さん、お父さん方はすごくエネルギーを持った世代ですので、お互いにつながり合っていくことによって、とつてもいい力を引き出していけると思っていますので、是非市内に子育てサロンや子育て支援センターなどの集う場をたくさんつくっていただきたいと思います。

市長

やはりそういう方は多いんですね。

カムイの杜公園の「わくわくエッグ」が結構人気があり、車でなければ行けないのですが、市内各地から多くの方に来ていただいております。このような施設もつくとするとそれなりにお金がかかるのですが、もういくつかあるといいなとも思っています。

石田

「わいわいベビースイミングクラブ」というサークルの石田と申します。よろしく申し上げます。

この度はこのような貴重な機会に参加できることに感謝いたします。市長とお話できる貴重な機会ですので、実際に育児中のママたちの声も聞いてきましたので、その点についてお話しさせていただきたいと思います。

最初に、市長からお話のあった市の事業や子育てサロンなどのハード面については、私の周りのママたちの話では、とても充実しており子育てしやすい環境だということをよく聞きます。でも皆が共通して、旭川は育児をしやすいところだけれども、永く住む場所ではないと言います。私はその言葉はすごく残念に思いますし、私は旭川は好きなので是非これからも発展してほしいという思いを込めて、旭川の悪い面に触れてしまっていますが、現場のママたちの声を紹介させていただきます。

まず、旭川市の長所は、3歳までの医療費を免除してくれるとか、子育て支援センター、児童センター、公園、病院も充実しており、旭山動物園もあり、イベントも充実しており、とても環境はいいのですが、短所としては、旭川市民が閉鎖的、排他的、批判的と言われている、若い人が旭川市に住みたがらない、旭川市を離れていく現実があるということ

です。そういう市民のソフト面を変えることが、少し込み入った心の面になりますが、子育てや今後の旭川の発展においても必要ではないかと感じています。

施設などのハード面については、他のまちでは小児科に通院するのに2時間ぐらいかかるとか、産婦人科が遠いので出産が不安だという声もありますが、旭川市では病院は選べるぐらいありますし、公園も人は少ないですが、数はあり充実していると思います。ですから、今必要なことは旭川市民の心を変えていくことだと思います。

今、市民の心を変えていくことが必要だというママたちの声を聞かれて、市長はどのように感じたのかお聞きしたいと思います。

市長

石田さんは旭川生まれですか。

石田

札幌生まれの札幌育ちで、夫の故郷が旭川です。

市長

多分、ずっと旭川で生まれ育った人は気付かない部分なのかもしれませんが、他のまちも知っているという人はそういったことを気付く方が多いのかもしれないというのはあります。旭川だけに限らず、地方都市というのは結構そういうところがあるのかなと思います。東京や札幌などでは、人口も多く流動も結構ありますので、そういう部分では風土的文化として違っているのかなとは思っています。実際につらい目に遭ったり嫌な思いをされ「旭川ってやだなあ」と感じられたんだと、お話を聞いていて思いました。

ハード面については財源との関係はありますが、やっていかなければいけないと思いますが、人のソフトの部分、心や気持ちについても大変重要なことだと思っています。家庭、学校、地域などでのいろいろな機会で心を育むということは必要だと思います。

市としても何かいい方法でPRできないかなと思っておりますが、どういう方法が一番効果的でしょうかね。

石田

具体案を考えてきたのでお話ししたいと思います。

子育てサロンで働いている方たちはとても温かく、私たちも悩みを相談したり、心も癒されていますので本当にその方たちには感謝しております。

私たちが旭川市は永く住む場所ではないと感じてしまうところは、公共施設の職員やスーパーの店員など、そういう旭川市民の態度です。例えば札幌から来た方の話では、札幌ではスーパーの店員やお客さんたちが、子どもがいるママに対して声を掛けてくれたり、レジでお金を払うのに手間取っていたら手伝ってくれたり、かごを持ってくれたりしてくれるのですが、旭川市では店員もお客さんも咳払いをして迷惑そうにしているのをひしひしと感じたとか、目を見てあいさつをしてくれないとか、公共施設の職員が、子どもが何かするんではないかと常に目を光らせ、注意するところを探すようなそういう視線を感じるなど、私たちはそのような些細なところから重い気持ちになり、やはり旭川に住みたくないという気持ちになってしまうのかなと思います。

そこで考えたのですが、「こども110番の家」というシールがあります。私も子どもが大きくなったらこれが貼ってある家などに迷わず入っていいんだよと自信を持って言えますので、例えばお店や公共施設に「ママパパ応援します」と書かれたシールやステッカーを貼っていただきたいと思います。実際何かしてほしいというわけではないのですが、それが貼ってある公共施設やスーパーでは、全面的に子どもやそのママに対して応援する態度というか、そういう気持ちで私たちは接していますよという気持ちを感じ取りたいと思います。

今のママたちは外出する時に旭川市民に対しての暗い印象がありますから、すごく気を遣っています。子どもには周囲に迷惑をかけないように強く言ったり、人が多い時にはな

るべく外出しないとか、レストランや公共施設などで混んでいる時には行きたくないという状況です。

私たちは優遇されたり優しくされたからといって横柄な態度になるわけではなく、こんなにいい環境の旭川市に感謝の気持ちとさらなる礼儀やマナーを守る気持ちを常に忘れないうで、これからもお互いが気持ちよく子育てをして旭川に住みたいと思っていますので、そういう本当に些細なところでいいのですが、旭川市民が子育てを応援しているという姿勢を感じたいということなのです。職員や店員の態度や気持ちがそのように変われば、おのずと周りにいる旭川市民の心も洗われ、皆が住みたいまち旭川、笑顔のまち旭川と言えるようになれば、これから旭川市の人口も多くなると思いますし、旭川市に住んでいることを自信を持って言えると思いますので、本当に些細なところで変わればいいなと思っています。

市長

貴重なご意見ありがとうございます。

私も個人として気を付けなければいけないと、今お話しをお聞きしていて考えさせられました。やはり笑顔なんですよね。皆が笑顔でいればまちも元気になるということなんです。私もいろいろな機会でも笑顔の大切さを宣伝させていただこうと思います。

やはり寒い地域の人というのは南国の人と性格が違いますよね。そういうのもあるのかもしれないですね。私の父親は今沖縄にいますが、「沖縄の人は明るくて人なつっこくて、すぐ友達になって、何から何までべらべら、こんなに聞いていいのだろうかというくらい話し出す」なんて言ってびっくりしました。地域柄というのかもしれないですが、やはり明るいまちにしていきたいという想いは一緒ですので、できることから進めていきたいと思っています。

お話しにあったステッカーなども将来的に貼っていただけるような店舗ができてきたいなと思うのですが、まずはできることから一つ一つやっていきたいと思っています。そういうご意見があるというのを聞かせていただき、本当に参考になりました。ありがとうございました。

杉山

旭川市社会福祉協議会の杉山と申します。よろしくお願いします。

ファミリーサポートセンターと子育て交流活動支援事業の担当をしております。

今、子育て支援センターの中山所長をはじめ、様々な関係者の方々、実際の当事者の方々がご意見を述べていましたが、社協としても地域の拠点や集いの場づくりは事業として行っているところ。社協で行っている事業の何点かについて、現状や現場における問題などについてお話ししたいと思います。

ファミリーサポートセンターは、平成14年度から実施しています。当初は働いているお母さん方のお子さんの預かりや送迎等を、地域住民の皆さんに有償ボランティアで実施していただき、6年ほど経ちましたが、最近、少しずつですが障害を持ったお子さんを抱えるお母さんの相談が増えてきています。子育て支援部の方にも毎月報告書を提出していますが、昔は依頼会員(育児の援助を受けたい方)と提供会員(育児の援助を行いたい方)をペアリングすることが主な事業でしたが、今は相談者がどのようなニーズを持っているのか、どのような課題があるのかという視点を持って事業を推進しています。障害を持ったお子さんのお母さんの悩みや、子育てサロン、サークルに行ってみたくてという悩みなど、声を出せない、一歩踏み出せない、地域で孤立している方々の課題の解決など、どのようにニーズをキャッチし、社協や支援センター、関係機関、行政がどのように役割分担しながらやっていくのかというのがこれからの課題になると思います。

福祉全般について、私ども社協は日々事業を実施しており、高齢化が進む中、社協は地域福祉の推進を大目標として掲げ事業を推進していますが、やはり地域づくりというのがこれからの主眼になってくるのかなと思います。今後とも行政との協働により事業を進めていきたいと思いますが、平成22年から26年の「次世代育成支援行動計画」の後期

計画の中で、是非、一般市民の方、サークル、サロンに参加している子育てしているお父さん、お母さん方などの当事者の声を計画に反映できるよう、私どもも協力させていただき、皆でつくって行ければいいと思っています。10年、20年後の旭川の子育て環境や、高齢者の介護の環境といった将来を見据えた計画を現状の課題を皆で解決しながらやっていきたいと思っています。

社協における子育て支援の関係の事業は、まだ10年も経っていない状況ですが、最近ではサロンですとか育児サークルさんと関係をつくらせてもらっています。先ほどのスイミングクラブの方のお話しにも通じるのかなと思いますが、旭川は転勤族が多く、また核家族化という部分で、産前産後の援助が課題となっている声を聞きます。ファミリーサポートセンターではあくまで預かり、送迎のみですので、遠く離れて親御さんの所へ戻れないという方の産前産後を援助できるような仕組みづくりを子育て支援部を通じてできればと考えています。

市長

後期計画は来年ぐらいから策定作業に入りますので、是非その時にはまた社協さんとも相談しながらいいものをつくっていきましょう。

産前産後の援助というのは具体的にはどういうものを想定されていますか。

杉山

家事援助です。身の回りの世話についての相談があります。

特に産後なのですが、親元に戻れない方が家政婦さんなどを利用して身の回りの家事援助をやってもらっているようです。ファミリーサポートセンターなど、制度上どうしてもそれができないというところでは、地域の担い手さんに援助をしてもらっているのですが、地域の担い手さんはそれほど多くはない現状です。

市長

そうですね。ありがとうございます。

中山

私どもの保育所には、第二子の出産時に、親が手伝いに来られないので、入院中を含めて産後2、3週間でも保育所で預かってもらえないだろうかという相談があります。

市長

市内に身内が居ない方でしたら大変ですよ。またいろいろ考えてみます。

小森

育児サークル「わんわん」の小森と申します。

私たちのサークルは地域子育て支援センター「おひさま」の赤ちゃん教室で知り合ったメンバーが立ち上げたサークルです。

まだ立ち上げて一年足らずですが、やはり他のサークルさんと同様に、会員の流動性と言いますか、転勤の時期になりますと大幅に減ってしまったりしますので、会員をどう募集するかが課題だと思います。

スーパーにピラを貼らせてもらったり、市で発行している「子育てガイドブック」や市のHP、またNPOサポートセンターの子育て応援サイト「カスタねっと@旭川」にも掲載していただいているのですが、子どもが1歳ぐらいですと、家事と育児で忙しく、なかなかパソコンを見ることができません。やはり「子育てガイドブック」のような冊子で見ると一番良いと思います。

転入された方にもこのガイドブックを差し上げているようですが、その際に職員が簡単な説明をしていただければ、今すぐではなくとも、後でサークルに参加してみようかなと思ったりすると思います。

また、先日、社会福祉協議会で育児サークルの一覧が載った冊子を見ました。このような冊子を子育てサロンなどで回覧するなどしていただけたらと思います。

それから、講演会やコンサートなどに行きたいと思っても、未就園児はだめというところが多いと思います。「おひさま」でも託児付きのいろいろな講座を開催しており、私はそういうものを利用していますが、日にちが合わないとか、場所が遠くて利用できないといった人のために、2回ほどですが、私たちのサークルで講師を呼んで講義をしていただきました。一つは救急講座ということで日本赤十字の方に来ていただき、救急、特に子どもの救急に関する講義をしていただいて、AEDの使い方も実習しましたが、開催するにもお金がかかります。会費を集めてはいますが、何度も開催できないと思うので、育児サークルに対して講師料などを1回程度補助するなどしていただけたらと思います。

2回目に開催した講座は、ファイナンシャルプランナーの方に来ていただき、いろいろな年金、保険などの話をいただきました。たまたまその方は私の知り合いで、子育て支援の一環で無料でボランティアでやっていただいたのですが、そういった人材も市の「生涯学習システム」で講師の検索はできるのですが、子育て支援という部分でご協力していただける方が全然分からないので、子育て支援の部分で低料金でやっていただける講師のリストをつくっていただけたらと思います。

私たちは末広公民館で活動していますが、とてもありがたいことに、末広公民館の方から、公民館としても支援したいというお話をいただきまして、今回、9月と10月と1回ずつ読み聞かせ講座を公民館主催で開催していただくことになりました。このような読み聞かせなどの支援は、保育園の先生たちも行っていると思いますが、公民館や地区センターなどをよく利用されているサークルが多いので、このように職員からの提案などでご協力いただければとてもありがたいと思います。

私たちから意見を聞くのも大切だと思うのですが、市の育児にかかわっている部署の方々からも積極的なご意見をいただければ、私たちもいろいろ考えたいと思うので、お願いしたいと思います。

市長

いろいろと活動していただいて感謝します。

部長、心意気としては頑張りましょうということですね。

子育て支援部長

子育て支援部長の北本でございます。

今、いろいろなお話を伺いましたが、もっともだなという部分もすごいです。ただ、市民の気持ちをどう変えていけるかというのは、私ども行政にとって永遠の課題といたら言い過ぎかもしれませんが、非常に大きな問題だと思っております。今いろいろお話がございましたように、今後、市の職員にも、子育て中は皆さんいろいろな不安を持っているんだよといったような情報提供などに努めていく、そういうシステムづくりも検討していきたいと思っています。

皆さまからのいろいろな貴重なご意見は本当に参考になりますので、今後私どもの事業に取り入れられるものを少しでも探していきたいなというふうに思っています。よろしく願います。

市長

今、部長からも心強い話がもらえましたので、私どももどういシステムがいいのか、今後考えてみます。ちょっとした心構えと言いますか、一言二言で人の気持ちが変わっていくのしょうから、そういうおもてなしの気持ちと言うのしょうか、市職員はもちろん、多くの市民の方に持ってもらいたいということで頑張っていきます。

小森

市の広報誌に、育児サークルの活動内容を載せていただけたらいいと思います。今ま

での広報を見ていると、サークルが何件あります、支援センターが何件ありますといったものしか載っていないので、活動の様子などを広報誌に載せていただけると、育児に関係のない方でもこういうのってやっているんだねと、例えばおじいちゃん、おばあちゃんが見て、こんなのやっているからどう？って、お孫さんなどに伝えることもできるので、なるべく多くの方の目に触れるようなところで載せていただければ、ありがたいと思います。

市長

広報誌は毎月特集を組み、いろいろなテーマについて掲載してきているのですが、例えば子育てをテーマにして、サークルなどのいろいろな活動を紹介していくとか、そのようなかたちでPRできるかなと思います。最近、子育てについての特集はありましたか。

子育て支援部長

広報誌には、昨年と今年の6月に子育てについての特集を組み、見開き4ページでPRさせていただいたのですが、どのような視点での記事にするかなどいろいろと難しい部分がたくさんあります。皆さんのようにサークルで活動している方のPRのほか、子育てに関する様々な制度についてのお知らせ、例えば旭川市では乳幼児医療費を小学校入学前まで通院、入院を含めて助成していますとか、今年からは小学校入学後も入院に関して助成しますとか、できるだけ多くの皆さんにご承知いただきたい、そのような制度についての説明やお知らせなどをどうしても優先してしまいますが、今お話しがあったようなことも念頭にいれながら、今後特集はどうあるべきか考えさせていただきたいと思います。

市長

またそのような特集を組ませていただこうと思います。

横山

豊岡蘭契保育園の施設長の横山と申します。

平成15年に支援センター事業型の子育て支援センター「によきによき」を開設しました。年々「遊びの広場」に参加するお子さんが多くなってきていますが、「によきによき」は豊岡3条3丁目にあるために、車で来る方がほとんどで、夏場は40人から50人の参加があり、そのうちベビーカーで来られる方は1割程度です。自転車やベビーカーなどで来ることができるように、小さくてもいいので市内各地にサロンなどをたくさんつくっていただければありがたいと思います。

また、「によきによき」はセンター事業のため、冬は外で遊べず、お遊戯室の一部で遊ぶことになり、人数が制限されてしまいます。9月の初旬頃から先着順の約25人と人数制限をしてしまうものですから、参加できなかった方々から苦情を受けることがあります。そういう面からももう少し遊べる場所があればいいのかなと思います。

市内に公園はたくさんあるのですが、公園に行っても誰もいないと言います。誰もいないところに行っても、子どもも喜ばないし、お母さんたちも楽しくありません。せっかくいい施設があるので、これを利用できないのかなと思います。

それから、最近では、お父さんが子どもを連れて参加することが多くなっています。今まではお父さんがあまり見えなかったんですが、この頃は、夫婦で来られる方もいますし、お父さんが休みの時に連れてこられるという、そのようなふれあいも強くなってきていると感じている一方で、子どもたちが、夫婦で来られる方に対して少し焼きもちを焼くという心配はあります。

これもここ最近のことですが、障害のある親子を介助している人から「お母さんも一緒にボランティアで見てもらえないでしょうか」と頼まれるということがあります。私どもでは、お子さんのサポートはできますが、お母さんのサポートは無理なので、どなたか引率していただきたいとお願いしています。

保育所についてです。旭川市には約200人の待機児童がいるそうです。永山の市有地で保育所の設置を公募しているのですが、将来的に土地は無償貸与ではなくなり買わな

ければならず、補助金も少なくなるということでは、なかなか応募する人はいないのではないかと思います。今あるたくさんの保育所、認可、旭川方式、認可外、事業所内、それらの保育所をうまく活用して、待機児童を解消する方法がないのかなと思います。今ある施設を有効に活用することでできればいいと思います。

それから、サークル活動で、遊びの広場や子育て講座などを行っているのですが、人数が限られており、先に申し込んだ人に優先権がありますので、新しい人がなかなか入ることができないという状況です。何か良い方法がないのかなと思っています。

それから、支援センターには2人の常勤の職員がおり、その他にボランティアさんをお願いしているのですが、もう少しボランティアさんが増えると不便をさせないで済むのかなと思います。

このように人数的なもの、財政的なものに苦慮しているのが、保育所型の支援センターの現実です。転入されてきた方々がなかなか入ってこれないという悩みもあります。何かいい方法を市長を始め市の方々が考えていただければ幸いだと思います。

市長

いろいろとご提案いただきありがとうございます。

市内に遊べる場所が少ないということなのですね。最近、あまり公園で子どもを見かけないですね。小学生が外で遊んでいるのも見ないですね。末広や旭町地区で女の子が連れて行かれそうになったとか、そういう不審者の情報も入ってきています。安心して子どもたちが遊べるようにいろいろと工夫しなければいけないでしょうね。

待機児童というのは認可保育所に対しての待機児童であって、認可外など他の保育所に入っている児童はカウントしていないのでしたか。

子育て支援部長

認可保育所の入所を希望しているけれども、入れない方が基本的に待機児童という位置付けになっているのですが、旭川市方式の通年制保育所に入られた方は、認可保育所を希望されていても、現在、保育の提供をさせていただいておりますので、待機児童の数には入れていません。

認可外保育所に入っていて、認可保育所をご希望になる方については、やはり待機児童という扱いになっています。

市長

2百数十人という待機児童がいるのですが、他の保育所に入っている子どもさんもいるので、実数はそれよりも少ないということですね。

永山の方は、もう今募集しているのですね。

子育て支援部長

第2永山団地という市営住宅を整備した時に余剰地ができたので、当初そこに高齢者の福祉施設を造ろうと計画していたのですが、時代が変わり待機児童が大きな問題となっていますので、何とか民間の保育所に来ていただきたいということで、HP上で募集しているところでございます。これは社会福祉法人であることが前提ですが、今後、社会福祉法人を運営する意志のあるところも該当しており、現在、問い合わせが相当数来ておりますが、まだ確定はしておりません。

その土地についてですが、非常に心苦しいのですが、市の財政状況を考えた場合と、また民有地であれば当然自分で土地を購入しますので、公有地といえども購入していただくという方針にさせていただいたところです。

市長

今、いろいろと問い合わせも来ているということですが、何とかやっていただける方を見付けることができればいいなと思っています。

ちょうど永山で大規模な宅地造成が始まっていますね。多分、若い世代の方たちが住むと思いますので、子どもたちも増えると思います。今、市内では永山地区と豊岡地区が待機児童が一番多い地域になっていますが、今年、豊岡地区と東旭川地区に新しく1園開園させていただきました。

20年、30年先の将来がどうなるかということまではなかなか予測がつきにくい部分もありますが、需給のバランスをしっかりと考えながら、少しずつでも増やしていけたらと思っています。

子育て支援部長

東旭川・東光地区については、現在建設工事中で来年の4月1日オープン予定です。

市長

ありがとうございます。来年の4月1日ですね。

鎌田

育児サークル「てくてく」のリーダーをしています鎌田と申します。

私はよく公園を利用しています。サークルを維持していくために金銭的なことを考えると、地区センターを毎回利用するとどうしても赤字になってしまうので、夏から秋にかけては公園を利用しているのですが、水が汚く、水遊びをさせられません。

個人的によく利用しているのが、新橋の下にある「リベライン旭川パーク」なのですが、そこは去年はとても水が汚く、あまり遊ばせることができなかったのですが、今年から木曜日に清掃しているようで、週末は虫が浮いていることもなく、とてもきれいです。しかし、他の所はかなり汚く、水遊びができません。

また、砂場は夜にふたをしていないと、猫のトイレになってしまったり、タバコの吸い殻が落ちていて汚く、やはり遊ばせることができません。

管理人が居る公園はきれいで、いないところは汚くなっています。

子どもが二人いると、下の子の方に手がかかり、二人同時に見て公園で遊ばせることができません。また、旭川の夏は日差しがとても強いので、上の子の熱中症に気を付け、ベビーカーの子どもを遊ばせることができないまま、暑さに耐えさせるしかありません。日陰がないということもその原因の一つだと思います。

先日、苫小牧に帰省した時に、公園に行ったのですが、新しいということもありますが、遊具がとても安全でした。大きな遊具の下には落ちないように網が張ってあったり、子どもの遊具の隣に、大人が使える健康器具のようなぶら下がりがありました。また、少し高めめの遊具の下はクッション性のある地面になっていて、旭川の公園では療育センターに隣接している小さな公園がそういう地面でしたが、こういう地面であれば子どもが多少無茶をしたとしても安全に遊べます。今の子どもは昔と違い、頭をどんと打ってしまうとか、落ちるときの防御が分からない子どもが多いです。私たちの子どもの頃は、山で遊んだりして自然に覚えてきたことを、今の子どもたちは室内で遊ぶことが多いので、安全な遊び方などをなかなか覚える機会がないのかもしれない。

私たちのサークルに、赤ちゃんがいるお母さんからサークルに入りたいと連絡が来ても、夏秋は公園遊びが中心になりますと言うと、では冬になってからにしようかなと言って、そのまま連絡は来ない状況です。できれば外と室内を交互に活動できるようにしたいのですが、金銭的に難しい状況です。

公園に小さな子でも遊べる場所があって、大きな子がお母さんがちょっと目を離しても安全に遊べるような環境だったら、もっとも公園を使えると思います。そのために、やはりごみがなく、赤ちゃんがゴミを食べたりしないような、空き缶で手を切ってしまったような環境にするとか、管理人をおくとかしていただけたらと思います。

また、今は歩いて行ける場所が少ないので、広報誌に駐車場のある公園を時々でもいいので紹介してほしいと思います。

市長

公園の管理は公園緑地協会が指定管理者となり一括して行っているのですが、来年から入札方法を変え、指定管理者を複数にする予定で検討しています。町内の公園であれば、町内の人たちで清掃していただけたときれいになると思いますし、管理人についても、できれば町内毎にそういう動きをしてもらえるように、働きかけていかなければと思っていますが、まず公園にごみを捨てないということをきちんと皆に守ってもらわないといけませんよね。私も子どもの頃、砂場で遊んでいたら手にふんがついたことが何回かあったなと思い出しました。定期的に清掃はしているのですが、間に合っていないのかなと思います。そういう課題があるということで、再認識をさせていただきました。すぐには解決できない課題でもありますが検討させていただきたいと思います。

野村

神楽地区の子育てサロンをしております、神楽民生児童委員の主任児童委員の野村と申します。

子育てサロンでいつも第2金曜日に使っているのが今日の会場であるこの部屋です。公民館の方に協力願って、机をどけて活動をさせていただいております。

先ほどの「わんわん」さんのお話で、私たちは少しでもいろいろなことでお母さんたちに交流してもらいたいということで、子ども劇場さんなど特にお知らせがある方たちには、いつでも自由にマイクを持っていただき紹介していただいておりますので、次回はずいとも「わんわん」さんをご紹介していただけたらと思います。

私たちは、神楽子育てサロンを平成15年10月に東旭川の次に民児協で、保育園の園長のご協力もいただきながら立ち上げました。もちろん皆さんが集う交流の場として立ち上げたということもあったのですが、まず神楽地区の乳幼児の状況や子育てに関する実態を把握するという含めて立ち上げました。

私たち民生児童委員20人のうちの18人それぞれに担当地域があり、それぞれの担当地域の子育てサロンのチラシを皆さんにお持ちいただいて、町内会の回覧板を使い回覧したのですが、町内会に入っていない若いお母さんたちには「今度子育てサロンを始めるからどうですか」とチラシを手渡しすることにより、顔見知りになりました。それが何回も続くうちに相談を持ちかけられたりなど、民生委員と若いお母さんたちとの交流も深くなっていったということもありました。

私事ですが、先日、全道民生児童委員活動集会に出席させていただき、本当にありがとうございました。集会では子育てサロンの分科会に入らせていただいて、いろいろな貴重な意見をいただいてまいりました。

市長

本当に長い間いろいろとお力添えをいただきありがとうございます。いろいろご提案もいただきましたので是非参考にさせていただきたいと思います。

安中

育児サークル「いちごりあん」の安中と申します。

末広地区センターで活動を始めて約1年になるのですが、利用料金が高く、1回に1,200円ほどかかっています。また10月からは暖房費500円が加算され、1,700円になります。月に3回は活動したいのですが、1,700円を月3回負担するのは大変です。社会福祉協議会から助成金をいただいているのはありがたいのですが、とてもそれでは成り立たないのが現状です。

料金が安い公民館をお借りしたいのですが、末広公民館では現在50サークルが活動されていて、新しくできたサークルには順番が回ってこないというか、部屋の空きがないので借りられる状況ではありません。冬期間だけでも1,000円以内で地区センターを貸していただけるようにしていただきたいと思います。

また、夫が失業され、車が2台から1台になり、残った車は夫が仕事を探しに行くのに使

い、お母さんには車がなく、冬になると歩きかそりしかないのですが、末広からカムイの森公園までそりを引っ張って来なさいというわけにはいかないのです、やはり歩いて通える範囲で会場を貸していただきたいと思いますし、私たちのサークルに0歳児、一番小さい子で3か月のお子さんなど、本当に小さい子がいますので、2回に1回は外で遊ぶということにしても、3か月の子に外で遊ばすことにはなりません。ですから、地区センターの利用料金の値下げをお願いしたいと思います。

市長

利用が頻繁になると料金がかさできますね。利用料金について、すぐにお下げしますと言えないのですが、そういう声があるということで、検討する課題のひとつだと思っています。

料金体系については、手数料と一体的に今後検討していかなければならないですよ。ね。

市民生活部長

指定管理者で運営しているのですが、地区センターの経営が成り立たなくなる可能性がありますので、特例の部分での対応をどうしていくかということになると思います。

子育て支援部長

子育てサークルの皆さんは、地区センターや地区公民館などのいろいろな施設を利用して活動されております。今もお話しがありましたが、市の使用料・手数料は厳しい財政状況の中で見直しをしている状況であり、私どもも平成18年度から、育児サークルの使用料については、社会福祉協議会に調整をお願いし、かかる費用については助成させていただいている状況です。ただ限られた予算額の中で各サークルさん、サロンさんなどがお使いになっておりますので、今お話しがあったような状況も起きております。

私どもも、子育てに関して何かうまい手立てがないものかと常日頃から考えており、例えば地区センターだけではなく、町内会館をご利用いただけないかとか、そういったこともいろいろなところでお話しさせていただいております。

今回も愛宕地区で子育てサロンを立ち上げることになりましたし、今後、末広、新旭川地区でも立ち上げることができるよう努力をしておりますので、そういったところもお使いいただければと思います。

市長

全市的に町内会館が使えるようになれば大分助かりますね。

子育て支援部長

ただ、施設面では町内会館では子ども用のトイレがなかったり、そういう部分はあるのですが、何とか町内会の皆さんにもご理解をいただきながら考えていきたいと思っています。

市長

予算の関係もありますので、その辺をふまえて今後検討させていただきたいと思います。

木下

私は、旭川で唯一の広場型の子育て支援センター「ねむのき」のスタッフです。7年目になりますが、利用者と共に作りあげてきた、家庭的できめ細やかな対応ができるということが売りになっています。

先ほども話がありましたが、お母さん方は車で遠くから来ています。「ねむのき」は神居にあるのですが、保育園併設型とは別に広場型の支援センターも市内のあちこちにあれ

ば、車を使わなくともベビーカーで来ることができますので、広場型もたくさん増やしていただけたらと思っています。

サークルに所属できるお母さんはまだ良い方で、お母さん同士で一応友達ではあるのだけれども、本音で話せず、実はライバルのようになってしまっているということをよく聞きます。ですからやはり話を聞けるスタッフの存在もすごく必要であり、ママ友とは違う部分での支援センターは必要だと思います。

私は転勤族でいろいろな市町村を見てきています。以前、帯広の子育て支援センターを視察したのですが、そこでは、障害を持ったお子さんがいたら、どこに相談するということが決められています。しかし、旭川ではどこに相談したらいいのかスタッフがわからないといった状況で、そういう面も少し遅れていると感じましたので、充実していただけたらと思います。

市長

相談の部分についてですが、今年の春に市の機構改革を行い、「子育て支援部」という部を新設しました。子育ての部分、学校の留守家庭児童会などもここに集約しましたので、大分相談の方も集約できたのかなと思っています。今後も順次利用者の声を聞きながら改善していきたいと思っています。

奥

永山の地域子育て支援センター「ほっとほたる」の奥と杉原です。今日は2名で参加させていただきました。よろしく願いいたします。

先ほどから支援センターの先生方がお話しされていますように、やはり車で来られる利用者がとても多いです。「ほっとほたる」は永山の奥の方にありますので、バスなどの交通の便も悪いので、身近なところにサロンなどがあるといいと思います。

サロンの時には0歳児、1歳児がすごくたくさん来ます。来られる方はよいのですが、なかなか家から出られないという方のための支援などもあるといいと思います。お母さん方が一番求めているのはそこかなと思います。

それから、「ほっとほたる」は保育園と併設しているのですが、やはり独立したスペースがほしいと思っていますし、先ほど「ねむのき」さんが言われたように、つどい型の広場も増えたらいいなと思います。

6月から9月まで近くの公園に行って遊ぶという「あおぞら広場」ということをしているのですが、そういう時に、何しているのかな？といった感じで集まってくる親子がいるのですが、そういう方々も増えていったらいいなと思います。

市長

そうですね。ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

新見

「母親クラブ えぶろん」の会長をしています新見と申します。

私は、ファミリーサポートセンターの育児型の提供会員、小学校での読み聞かせ、中学校のPTA、町内会の婦人部などの活動していますが、それらの活動を通して、旭川市というのはすごく閉鎖的だと感じます。風土性なのかもしれませんが、やはり一人一人と対話していく中で、そこに喜びを見出す方もおりますので、そういうことを地道にやっていく以外ないのかなと思います。

「母親クラブ」は、市内に7か所ある児童館・センターを拠点にして、行事のお手伝いなどをさせていただいていますが、メンバーが定着しないので、何とか会員が増えるようにと思っています。現在は町内会の婦人部長さん、青少年育成部長さん、主任児童委員さんなどに協力していただき活動しています。

児童センター・児童館のあり方などについて、検討していただきたいことがあります。例えば、「えぶろん」の活動の中で、交通安全教室や、読み聞かせなどを行っているのです

が、交通安全教室では市の職員に来ていただき、子ども向けに着ぐるみを着て見せてくれたりしています。このように横の部分で連携を取って、お互いに助け合えればすごくいいと思います。

もう一つは、児童館・センターに先生方が2、3人いるのですが、館長である市職員の方が常駐ではありません。以前、春光の児童センターの近くで事件があったのですが、万が一、児童館に犯人が入ってきたらどうするんだろうかと、メンバーの方が心配していました。財政の面などいろいろとあるかもしれませんが、子どもたちは何十人もいますので、先生が一人とか二人という状態ではとても大変だと思います。責任者である館長がいれば、何かあれば私たちも責任者に相談できるのですが、いなければ市役所の方に聞くということになり、即決ができずすごく時間がかかる場合もあります。そういう部分で館長という責任者がいればすごくやりやすいのではないかと思います。私たちがボランティアとしてお手伝いできればいいのですが、やはり仕事を持っていたりして、なかなかきめ細かくお手伝いできない部分がありますので、職員の方も増えればいいと思います。

何とか私たちが市を巻き込むようなそういう勢いを持って、メンバー一人一人頑張って活動していきたいと思います。

市長

ありがとうございます。

藤田

今、いろいろな要望や、旭川市ではまだまだ十分ではないと言われる部分などをいろいろとお聞きして感じたのですが、私自身、昔、皆で会費を出し合い、託児しながら勉強会を開くという、共同保育ということをやっと行ってきました。それで今はまちづくりにも関わり、PTA、町内会、市民委員会活動などの地域づくり活動をしています。

例えば、町内会活動のひとつで公園の清掃をしているのですが、町内会に加入している人が少ないという問題がありますが、公園が汚かった場合、自分たちから、「皆で楽しく遊びながら掃除しよう」というような動きをつくっていくことにより、さらに活動が充実するのではないかと思います。

いろいろと努力されているとは思いますが、例えば公民館などの公共施設の利用といった部分も、人間関係ですから、自分たちの活動していく中での呼びかけ方ひとつで変わってくるかなと思います。

今の若い人に、こうやりなさいと言っても時代が違いますから簡単にいかないのかもしれませんが、地域でもあいさつ運動しようとか声かけしようなどしていますけれども、やはりまず自分たちからこうやってほしいということを実践していくことにより、旭川市民がもっと心優しい市民になっていくと思いますし、そういったことも自分たちで結構担えるんですよね。

私たちの言い方ひとつで行政の方と一緒に上げていくことができるんですね。

私は旭川市の職員の方は皆心有る方だと信じていますので、そんなに構えないで、こういうふうになりたいから、私たちはこうしますから、ぜひバックアップをお願いしますというように、自分たちから流れをつくっていく、若い人たちは元気だからそれができると思います。

私たちのような地域の者も応援しますから、ぜひ子育てサロンの主任児童委員や児童委員にも相談してください。バックアップしたいと思います。よろしくをお願いします。

市長の終わりのあいさつ

最後に藤田さんから、今後の展望も含めた本当にすばらしいお話をいただき、ありがとうございました。

私どもも足りない部分もあると思いますし、また地域の住民の方にももっともっとまちづくりに参加していただき、一緒にまちをつくっていきたいという思いを持って、住みやすく、笑顔のあふれる旭川にしていけたらいいなと思っておりますので、今後ともどうぞよろしく

お願いいたします。